

ひろか

だより

第389号

令和6年12月16日

発行
弘果
弘果 弘前中央青果株式会社
津軽の「うまい」がここにある

年末大開放
年末のお買い物は弘前水産で!
25日(水)は休場日です
12/23(月)~30(月) 毎朝 午前10時まで

弘果この一年

令和6年も残すところあと僅かとなりました。農作物の生産・流通現場では、自然災害や天候等の要因が、生育、品質、収穫量に大きな影響を及ぼし、国内外の政治経済情勢や経済環境の変化等の複合的な要因で、需給バランスや消費動向、価格等が大きく変動した一年でした。そこで、当社取扱いのりんご、やさい、国産果実、輸入果実、花きそれぞれの令和6年を振り返ります。

りんご

令和6年産りんごも、生産面において春先からの天候の影響を受ける一年となりました。

8月2日の開市から11月30日までの累計は、弘果が数量352万1千箱(前年比103.8%)、平均単価6200円(同108.9%)、津軽りんご市場が数量171万9千箱(同96.9%)、平均単価6123円(同112.2%)と、高単価で推移した昨年を上回る単価で取引されました。

生産面では昨年の猛暑等の影響から、弱小芽(横径3mm以下の小さい花芽)が多い園地や、一部地域では開花量が少ない園地もありました。また、ふじの満開

やさい

期には低温でマメコバチの活動も鈍く、カラマツが発生し、着果量が少ない園地が散見されました。着果量確保の為に、側果対応したことにより、肥大にはバラつきがあり、サビ、シブ果が多く、晩生種においては、昼夜の寒暖差が小さいことから着色が悪く、下位等級品の割合が多い入荷となりました。

販売面では他県産のりんごの出回り量も少なかったことで、早生種から国内での引き合いが強くなりました。

また、中秋節、来年の旧正月が例年より早いことから、海外需要の仕入れが早まったことに加え、中生種からは長期CA貯蔵品の仕入れも本格的に始まったことにより、上実から下位等級品まで堅調な取引となりました。

国産果実

【県内果実】

つがりあんメロン「アムさん」は、順調な入荷となり、高単価で推移した昨年を下回る取引となりましたが過去5年の平均単価を上回りました。委託選果のつがりあんピーチは、8月1日より選果機稼働し販売を開始しました。昨年並みの高温の影響から前進出荷となり、品種によっては、前年を下回る単価での取引も見られましたが、集荷及び販売に努め、概ね順調な取引となりました。夏秋いちごは、温暖化の影響もあり、良品物が少ない入荷が続きました。また、高温による調理離れと単価高で、消費者の購買意欲が低下し、末端での荷動きが鈍い状況となりました。

7月以降は、猛暑の影響から全国的に出回り量が少なく、単価高での取引となりました。県内産は、高温の影響から品質低下が目立ち、大型野菜や果菜類では下位等級品の割合が多く、良品物が少ない入荷が続きました。また、高温による調理離れと単価高で、消費者の購買意欲が低下し、末端での荷動きが鈍い状況となりました。

秋にかけては、関東以西の出荷が始まりましたが、夏場から続いた高温の影響で品質状態が悪く、品質が安定している本県産に引き合いが強まり、高値での取引となりました。

今後も高温の影響が尾を引き、年末まで各品目共に入荷量が少なく、単価高が続く見通しです。



輸入果実

輸入果実の取引は、候的、政治経済的要因に大きく左右されます。令和6年は、主力品目であるバナナ、パイナップルを中心に、他の取扱品目においても、①不安定な国際情勢や円安等が要因で、全体的に日本入荷が少なくなりました。②エルニーニョや台風の影響等、世界的な気候変動が生産に大きく影響し、生産量や品質が不安定となっていること。③日本人荷減少による単価高により、末端での荷動きが悪いこと。④ローカルスーパーの減少により、県外を基盤とする

花き

減少し、単価高での取引となったことから、荷動き悪く低調な取引となりました。秋冬果実においては、和歌山県産をはじめとする柿の高温と収穫前の降雨の影響から秀品率が低下し、また高齢化や後継者不足により生産量の減少となっており、委託選果を強化し、生産者の労力軽減となるように取り組んでおります。

弘前花きは4月1日から、「弘前花き部」として営業を開始しました。取扱いしている「切花」(鉢物)ともに、需給バランスが天候の影響による生育状況や消費動向に大きく左右されました。今年も産地、品目にもよりますが、生産量の急増で価格が暴落したケース

止市

【弘果 弘前中央青果】
花き 12月27日(金) 12:00~
りんご 12月28日(土) 8:00~
青果 12月29日(日) 6:00~

【津軽りんご市場】
12月28日(土) 8:00~

初市

【弘果 弘前中央青果】
青果 1月5日(日) 6:30~
りんご 1月5日(日) 8:00~
花き 1月5日(日) 10:00~

【津軽りんご市場】
1月5日(日) 8:00~

仕切金のお支払いについて

弘果
12月27日(金)まで
※12月20日(金)は午後3時までとなります
1月6日(月)からは午前7時~午後4時まで

津軽りんご市場
12月27日(金)まで
1月6日(月)からは午前8時~午後4時まで
※両市場とも土曜日・市場休を除きます

りんご無冷蔵品は凍結に注意し
早めの出荷(1月中旬)をお願いたします

「農」の「業」を継ぐ 期待の後継者



太田 芽吹さん (28)

【園地所在地】
田舎館村枝川

【作付状況】

家業である「農業」に希望を見出し、夢に向け努力する期待の後継者を紹介します。

各種・1500坪、ぶどう各種・30畝、他

【就農年】 2022年

【きっかけ】花き栽培を中心とした農家に生まれ、花に囲まれて育ち、畑やハウスに居ることが好きで、常に家業の手伝いを行っていました。ただ当時は、「後を継ぐ」という確固たる思いが無く、短大卒業後は就職し、合間を縫っては家業を手伝っていました。そのような生活を続けていく中で、仕事へ真剣に取り組む父を見ていくうちに、その背中を追いかけて、家業をつなげていくという使命感と、やはり自分は花をはじめ、農作物を育てることが好きで、一生の仕事としていきたいという思いがあり、意を決して本格的に就農しました。

【現在】父を師と仰ぎ、栽培技術の習得、向上に努め、農業経営を勉強しています。手伝いだけでは見えてこなかった、生活の糧を得る「仕事」としての農業のシビアな部分を知ること、理想と現実のギャップを感じることもあります。しかし、就農を決意した「初心」を忘れることなく、現在の積み重ねを種に例えるなら、水（知識・経験等）を絶やさずにつぼみから花開けるよう、日々励んでいます。また、我が「太田農園」の広報（自称）として、SNSで農園や農作物の魅力を発信しています。

【夢・展望】農作物において、常に新しい品種の栽培へチャレンジしている父の姿を見て育ったこともあり、商品性、将来性がある品種の情報収集に余念がありません。そして、弘果農産指導課の勧めもあり、白桃とネクタリンの交配種「ワッサー」の将来性に着目して、栽培計画を進めています。

【座右の銘】「人生はどちらかです。勇気を持って挑むか、棒に振るか」偉人伝でも有名な、あらゆる身体的ハンデを克服し活動した、アメリカの教育者ヘレン・ケラーの格言です。自分は多少引込み思案なところがあり、様々な局面で決断できずに、チャンスロス（機会損失）をすることが多々ありました。自戒の念を込めて、この言葉の通りに何事にも勇気を持って挑み、失敗しても後悔することなく、結果が出せるように励んでいきたいです。

緑起物ずらり会場を彩る

当社第2卸売場特設会場において11月22日、弘前市下湯口の岩崎智里さんが手掛けた文字絵りんごの研究発表会が行われました。



創作文字絵りんご研究発表会

来年の干支「巳」や招き猫、クリスマス関連の絵柄が入った69種類の261点の作品が出品され、競売では、七福神や松竹梅等、緑起物の文字絵が入った陸奥17個で構成された「宝船」が当日最高値の15万円で取引されました。

岩崎さんは競売後「昨年ほどではないものの、夏の高温で年々りんごの着色が難しくなっています。しかし、今年はまずまずの量を確保することができ、仕上がりも良好で、多くの作品を出品できました。競売では高値で取引していただき、今後の制作の励みとなります」と話していました。

弘前市場まつり開催

第27回弘前市場まつりが11月23日、弘前水産地方卸売市場で開催されました。同まつりは、弘前市場まつり実行委員会が「より親しまれる身近な総合市場」をPRしようとして毎年11月の日曜日に開催されてきたもので、今年も土曜日が祭日ということもあり、開催日が土曜日へ変更されました。



巨大鍋で煮込まれる「カニ大鍋」



紅白餅まき

当日は、開催を待ち遠しにしていた人々で賑わい、約1万7千人が来場しました。名物となつた3メートルの大鍋で煮込まれた約4千食分の「チャリティーカニ大鍋」、セレモニーでは「紅白餅まき」、各会場に



活気あふれる模擬競り



数量限定の海鮮丼は即完売の人気ぶり

おいては、魚介類、野菜、果物、花き等の販売、名物の海鮮丼の販売、巨大アップルパイの実演即売会、マグロ



行列ができるキッズシカールのブース

解体実演販売、模擬競り等が行われました。また今回は、多種多様なメニューを提供するキッズシカール17台が初出店し、目当ての味を

求めて行列ができていました。来場者は「朝早くから恒例の「カニ大鍋」の列に並び舌鼓を打ち、このまつりの独特な雰囲気と活気を感じて、新鮮な魚介類や野菜、果物を買いたい」と話していました。



掘り起こされた里芋の状態を確認する関係者

野菜の生産現場では、生産者の高齢化等により、野菜作付面積の減少が年々増加傾向です。この現状を少しでも改善するため、一部では、機械化が可能で労力軽減が期待でき、温暖な天候を好む品目「里芋」に着目し、産地化を目指しています。現在は14名の生産者が94坪で作付けを行っています。

里芋の産地化を目指す

の1つとして、弘果が栽培に必要な農機具を貸出するシステムの構築に向けて11月12日、掘取機を用いた試験収穫が行われました。関係者が見守る中、掘取機を装着したトラクターで実演され、地中から次々と里芋が掘り起こされていきました。その後、関係者全員で掘取状態や品質を確認し、今後に向けた準備を進めていきました。

そ菜部では、里芋の栽培者を募集しており、関係する農機具の貸し出しも行ってまいりますので、詳細はそ菜部、農産指導課へお問い合わせください。

りんご剪定勉強会 開催のお知らせ

弘果りんご連絡協議会

浪岡 1月6日(月) 9時30分～
場所：前田正彦氏 園地
講師：工藤良和氏、有馬千代志氏

平賀 1月7日(火) 9時30分～
場所：葛西誠氏 園地
講師：山田敏彦氏、葛西厚平氏

大紅栄

1月11日(土) 9時30分～
場所：(有)ヤマセ農園 園地
講師：兜森勝幸氏、鳴海純氏

1月9日(木) 9時30分～
場所：成田美保子氏 園地
講師：成田淳逸氏、齋藤力氏、成田毅氏
※葉とらずふじの剪定も行います

高杉 1月10日(金) 9時30分～
場所：須藤房江氏 園地
講師：須藤茂樹氏、對馬達二氏

津軽りんご市場連絡協議会

1月11日(土) 9時30分～
場所：白鳥一成氏 園地
講師：館山毅氏、田沢明裕氏、葛西伸氏